

アカマダラコガネ について*

高橋 寿郎

アカマダラコガネ *Poecilophilides rusticola* (Burmeister) を始めて採集した時は妙なコガネムシだなアと感心したものである。それ程眼を見張るような美しさもない渋味な虫である。たゞジックリと見ていると仲間ユニークな斑紋をしていて捨て難い虫でもある。全国的に見ても広く分布しているが、それ程個体数の多い種ではないようだ(最近山梨県韭崎にて非常に多くクヌギに集っていた報告がある。月刊むし, No. 175, 1985)。たゞ日本産コガネムシとしては大変古く学名が与えられた種で古くから知られていた虫のようであるが渋味な色彩のためか本日まで余り話題にものぼらないまゝきてしまった虫のようでもある。自然開発がすゝむに従い神戸あたり市内で採集出来ていたものが次第に姿を消してゆきつゝあるようにも思われなんだか人の眼の前から次第に遠ざかってゆく虫のようで淋しくもある。そこでこの虫に関して手許の標本とか資料で雑文をまとめて見ることにした。

まづ本種は1842年 H. Burmeister が *Handbuch der Entomologie, Band. III, Berlin* の p. 624 に *Anthrachophora rusticola* として Japan を産地に記載された種である。

1875年には Waterhouse は "On the Lamellicorn Coleoptera of Japan," 中で (Trans. Ent. Soc. part. 1, p. 114) 種名のみを記していて産地は Japan としている。記載は無い。

1878年の E. v. Harold の "Beiträge zur Käferfauna von Japan (Viertes Stück)," (Deut. Ent. Zeit. XXII, Heft. 1, p. 72) の中でも種名のみが出ている。

1886年 Kolbe, H. J. は "Beitrage zur Kenntnis der Coleoptera-Fauna Korea," (Arch. f. Naturg. 52:196) の中で本種を記録している。分布に北支, 日本とアスコルド島 (Is. Askold) として Gottsche 博士がソウルの旅で傷ついた栗の樹から発見したと記している。同時に *A. sinensis* Saunder は本種と同一種であるとの見解をのべている。

1887年 G. Lewis の "A Catalogue of Coleo-



Poecilophilides rusticola (Burmeister)

*兵庫県甲虫相資料. 152

きべりはむし Vol. 13. No. 2, p. 29-36, 1985

ptera from the Japanese Archipelago”の中でも種名のみで産地の記入は全くない (p.14, No1024)。

1887年 G. Lewisは “On the Cetoniidae of Japan, with Notes of new Species, Synonymy and Localities” (Ann. Mag. Nat. Hist. xix(5): 199) で “This species is common in Kiushiu, but has not yet been observed north of Kioto” と書いている。同時に A. rama Bainbridge, 1842. A. sinensis Saunders, 1852 も同一種に扱っている。

同じ年 Schönfeldt, H. v. が発表した “Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe der bezuglichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte” (Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde 40: 111) の中で本種の産地を “Tokio” としている。Lewis はその時点で京都以北の分布を知らないとしているが Schönfeldt の Tokio は誰の採集品だったのか知らないが、このあたり迄分布が知られていたことになる。尚 sinensis は同一種に扱っている。

Kraatz は 1898 年に *Cetonia delmanni* Hope (1831) をタイプ種として *Anthracophora* 属の 1 部から別けて *Poecilophilides* 属を創設された (Deutsche Ent. Zeitschr: 406)。日本産のアカマダラコガネもその後両方の属名が使用されていたが現在では *Poecilophilides* 属として扱われている。台湾に産するクロチャマダラハナムグリ *Anthracophora curcifera* Olivier と比べて見ると体表の色彩はとも角として中胸突起がクロチャマダラハナムグリは僅かに突出している程度であるが、アカマダラコガネは腹面が真っ黒なのに対して中胸突起は黄褐色にして光沢を有し円形で良く突出している点は大きな相違点である。

同じ年 (1898) Reitter, E. は Best.-Tab. Melol. II, Theil. XXXVIII, Heft. p. 78 に *Anthracophora* 属で記録している。

1906年 松村松年博士は日本千虫図解第三, p.96. pl. 48. fig.13♀に図説された之が日本人による本種の初めての図説になると考えられる。

1921年の S. Schenkling による Coleop. Cat. W. Junk (72) Scarabaeidae: Cetoniinae p.268 においては *Poecilophilides* 属の種として分布に Japan, Korea, Askold, China を掲げてある。こゝでも rama, sinensis 共に同一種に扱っている。

1922年に新島善直, 木下栄次郎両博士によって “こがねむし = 関スル研究報告 (第二)” (北大演習林研究報告 Vol.2, No2, p. 164, pl. V, f. 1) に始めて詳しい記載をされた。その時点の産地としては従来の外国文献からの引用 “Japan, Korea, Amurgebiet, Daurien bis zur Mongolei” に加えて本州, 九州, 東京を示されている。

1924年には岡本半次郎博士は “The Insect Fauna of Quelpart Island” (Bull.

Agr. Exp. Stat. Gov. Chosen 1(2): 179)の中で本種について“ One specimen taken by C. Inoue. Common in Corea and Japan proper (Honshu and Kiushiu), and found also in North-China and on the Amur (Kolbe and Heyden) ”と記しておられる。sinensisも同一種と取扱っている。

1930, 1940年代の各種代表的図鑑には全部図説されている。即ち神谷一男, 安立綱光, 原色甲虫図譜, 1933, pl. 52, f. 8., 加藤正世, 分類原色日本昆虫図鑑 第八輯, 1933, pl. 13, f. 7., 平山修次郎, 原色千種統昆虫図譜, 1937, pl. 64, f. 2, p. 135 (図説は東京芝産), 原色甲虫図譜, 1940, pl. 23, f. 2, p. 56. いづれも分布に四国が入っていない。

1933年 加藤正世博士により菊池氏採集の満洲産アカマダラコガネが原色で図説された(昆虫界, vol. 1, No. 1, pl. 1., この図で見る限りでは日本産と同じ様な斑紋を呈している)。

1934年に同博士は再びカラーで図説(昆虫界, vol. 2, No. 7, pl. 46, f. 10)“ 樹液に集まる種類であるが極めて少い。筆者は東京市内で二回採集した。何れも秋である。 ”と記しておられる。分布にやはり四国が無い。同博士は同じ昆虫界 (Vol. 3, No. 18/19, p. 342-349, 1935) 誌上に“ 主要金亀子科の分類(4) ”を發表されたが其処でも分布に四国は無い。

1937年 新島善直, 木下栄次郎両博士は“ 熱河省産昆虫類 (VII) ”の中で (p. 13-14, pl. 3, f. 1) 美しい図をつけて記載しておられる。そして分布に五岔溝を産地に北支那「アムール」地方「ダウリア」, 蒙古, 朝鮮, 日本を分布に掲げている。

1938年には福井県博物学会が原色福井県昆虫図譜を發刊この中でカラーで県丹生郡朝日村産の標本を図示された (pl. 9, f. 10)。同じ年 加藤博士は“ 武蔵野昆虫誌 ”を發表されたが、この中では本種の分布に四国は入っているし台湾も入っている。

1939年には三輪勇四郎・中條道夫両博士の“ 日本産鞘翅目分類目録, 金亀子虫科 ”が出版された。この中での分布は四国も台湾も入っていない。

1949年 沢田玄正博士は台中州北抗産1♀をもって本種が台湾に産することを記録された(関西昆虫学会々報 Vol. 14, No. 2, p. 71-72)。実は台湾を分布地に掲げてあるのは前にもあった(加藤, 1933, 1934, 1938. 平山, 1937, 1940)。これ等が確實な標本に基づいて分布を記録してあったのかどうかは良くわからないが本種が台湾に分布していることは一応正式には出たわけであるが最近になっても台湾を分布地に入れていないものもある。実際に本種が台湾にいるかどうかは現段階で筆者には良くわからない。

戦後に出た各種図鑑とか図説類には大体本種は図説されている。

村山醸造, 1950, 日本昆虫図鑑 (p. 1320, f. 3810)。伊賀正汎, 1955, 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編 (pl. 32, f. 706, p. 103)。野村 鎮, 1963, 原色昆虫大図鑑Ⅱ (p. 77, 174)。1983, 岡島秀治, 海野和男, 1983, 日本の甲虫 (p. 50)。黒沢良彦, 渡辺泰明, 1984,

甲虫 (p.188, f. 4)。黒沢良彦, 1965, 原色日本甲虫図鑑Ⅱ (pl. 75, f. 10, p.414)。

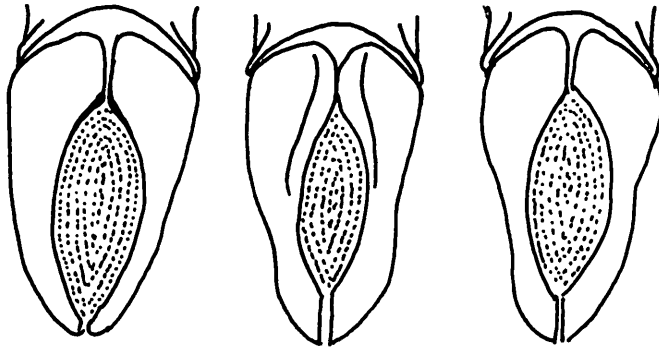
以上の図鑑類に出ている本種の属名については村山博士のものは *Anthracophora* であるが他のものは *Poecilophilides* とされているし最後の黒沢博士は日本産を原名亜種として大陸産は亜種 *P. r. sinensis* (E. Saunders) になるとされている。

分布がシベリア東部, 蒙古, 中国, 朝鮮にも及んでいるから当然海外での文献もある Medvedev, N. は 1964 年に "Fauna CCCP Vol. X, No. 5" 中で記載されている (p. 311-314, fig. 729-734)。朝鮮からは C. W. Kim の "Distribution Atlas of Insects of Korea" の中に朝鮮の詳しい分布が出ている。之を見ると朝鮮には可成り多くいる種のようにであり採集した月は 9 月が一番多い。次いで 6, 5, 8, 7 月の順であり 4, 11 月の例もある。また寄主植物としてカシワ, コナラ属の樹となっている。

本種の生態に就いてはまだわからない点ばかりで日本では本種の生活史などに就いての報文はほとんど見られなかった。林博士は "成虫は 5 月ごろから出現し, 樹液に見られ幼虫はもろくなった朽ち木, または腐植物を食べるものと思われる" とのべられている (1975)。岡田俊典氏は兵庫県一の鳥居で採集された (川西市) 1♂ 2♀ を飼育され採集から死亡まで 687, 766, 1059 日と可成り長期間生きること。それと日中ほとんどおがくずの中にもぐってあまり上に出てこないと言うことを報告しておられる (インセクタリウム Vol. 8, No. 10, p. 197, 1971)。夜間活動性なのかもしれない (始めに註記したが堀江氏の生態に就ての報告も最近発表されている, 1985)。

日本ではこの種の幼虫の図説も見られなかった。最近 Zhang, Z. による "Economic Insect Fauna of China. Fasc. 28" (1984) の中に図説されている (pl. 29-30, pl. VI, fig. 80-83)。それによると南京付近では 1 年 1 代で幼虫越冬。成虫は 4 月下旬から 9 月初めまで見られ最盛期は 5 月となっている。楡樹液を喜んで食し熟した桃果などにも来ることがあると。幼虫は堆肥とか或は腐った朽ち木などで過すこともあるとのこと (1933 年昆虫界 Vol. 1, No. 4, p. 438 に坂本澄雄と云う人が漢口で本種を記録している。筆者の 2 年間の中国大陸での滞留期間中河南省信陽-武漢北方-で 1 度本種にお目にかかったことがあった)。

本種の台湾産は黒色斑紋著しく薄く。前胸背上には僅かに 3~4 対の点状紋を有するのみにて中胸突起は少しく巾広くより円錐状を呈すと沢田博士はその特徴を記しておられる (1949)。黒沢博士も大陸産は細形で淡色, 黒斑も少ないとしておられる。筆者は玉貫光一氏に頒けて頂いたシベリア産 1♂ を所有しているが (21-VI-1962), 確かに黒紋は非常に少く一見して日本産のものとは違って全体が赤褐色に見える。朝鮮産は 2♂ しか所有していないが (鉄原, 2♂, 14-VII-1989), こちらの方は日本産に割合近い斑紋である。強いて見た場合やゝ黒い斑紋が少いかなアと感じる。



朝鮮産
(14-VII-1939)

シベリア産
(21-VI-1962)

北海道産
(15-V-1942)

アカマダラコガネ ♂ 交尾器

この交尾器は日本産と朝鮮産、シベリア産と基本的な違いはないようであるが、多少形態の違いはある（中国大陸のものはどんなのであろうか。Medvedev が図説したものは朝鮮産と同じである。1964）。もっと多くの標本を見、出来れば生態面での観察が出来ればまた違った問題点があるかもしれないが亜種に別けて扱うことが妥当かどうかについては筆者には良くわからない。

最後に筆者の所有文献で本種の国内の記録地をひろって見た。本種もまづ同定を間違える様な種ではなく（属名の扱の違いはあっても）、その意味では記録違いの心配はないわけであるが何分にも貧弱な文献（最近のように情報過多の時代にはとてもキメ細い記録の蒐集は不可能になっている）からの収録であるから大変心もとないのであるが大体の傾向はうかゞえると思う。それを見ると北の方の分布が大変少い様な気がする。青森県の記録も山谷氏が“1935年少からず採集したことがある”と云う記録だけで詳しいデータも無いし、それ以外の記録を見ることが出来なかった。シベリアあたりにいる種のようなから本州の北部地方での分布もあってもよいのではないかと思う（朝鮮では可成り多いようである）（最近の報文では山形県下には割合記録があることがわかる）。また屋久島以南の分布が見当らない。台湾に産するとなるとその間の地点での産出も期待出来そうである。可成り広く分布している種であるが、いづれの地でも個体数の少い種の一つであるようだ。

アカマダラコガネの文献にあらわれた記録。

青森県（山谷文仁，1975 山昆虫誌 5(1): 5）

山形県米沢市外小野川温泉（中山周平，1941 昆虫界 9(84): 113-114），小国町岩井沢（山谷文仁，1975 山昆虫誌 5(1): 5）。米沢市：旧市内，東置賜郡：沖郷，上山市：

三吉山，蔵王：坊平，山形市：盃山，千歳山，滝山，雁戸山，東根市：乱川。小国町：岩井沢（桜井俊一，山昆虫誌 No.13, p. 20, 1984）。

新潟県新津，柏崎，高田（土田繁也，1943 昆虫界 11(114):439），新潟，佐渡島（中根猛彦，馬場金太郎，1960 長岡科学博物館報：9），胎内川溪谷下流（馬場金太郎，1972 飯豊山塊，胎内溪谷の生物：212）。

茨城県桜山，御前山（日置正義，1973 瑠璃星 1:3, 26）。

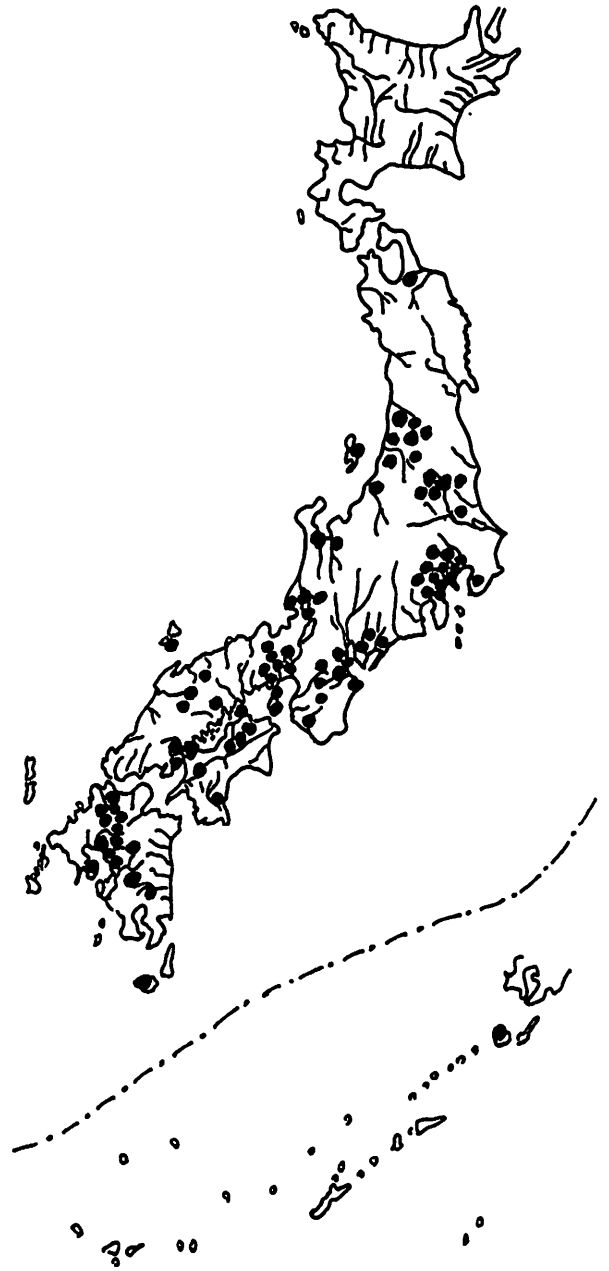
栃木県大田原市佐久山，中田原，金田八溝山麓（加藤 仁，1971 インセクト 22(2):8），鹿沼市，宇都宮市，大田原市（稲泉三九，1972 栃木県の動物と植物：469）。

千葉県館山（市川敏之，月刊むし No.9, p.31, 1971）。

東京都（Schonfeldt, 1877., 新島，木下，1922., 加藤，1934），芝（平山，1937，1940., 松岡勝輝，1938 Nippon Kontyu 1(1):33），武蔵野（加藤，1938）。

神奈川県鎌倉。逗子（青柳鷹之介，1939 昆虫界 7(25):421），横須賀市（柴田泰利，1955 新昆虫 8(3):46），大船公園（井本憲邦，甲虫ニュース(1):3, 1969），三浦半島；大楠山，衣笠；湘南，大船公園，秦野市震生湖，小田原，箱根，小田原市水の尾（平野幸彦，1981 神奈川県昆虫調査報告：295），横浜市金沢区，葉山町，横須賀市（大場信義ほか，1981 Sci. Rep. Yokosuka City Mus. 28:50）。

山梨県日野春（市川敏之，1972 月刊むし 12:32-33），韭崎（堀江英年，1985 月刊むし 175:38）。



アマダラコガネの国内産地分布図

- 富山県東砺波賀東別所，高岡市二上山（北村征三郎，1982 *Amica* 27:95）。
- 愛知県名古屋市内（穂積俊文，1958 佳香蝶 10(34):9），石巻山，鳳来寺山（松野更一・松野光恭，1975 三河の昆虫 12₁₃:49），石巻山自然歩道，豊川市（松野更一，1973 三河の昆虫 (4):14）。
- 福井県（井崎市佐衛門，1935 昆虫界 3(13):19，福井県博物同好会々報 6:22），福井，足羽，丹生，遠敷（福井県博物学会，1938）。
- 三重県湯の山，水沢（山下善平ほか，1963 鈴鹿山脈自然科学調査報告書:251），鶴方（山下善平ほか，1965 志摩の自然:13），平倉（山下善平ほか，1968 三重大演習No.1:60），津市長谷山（松井弘見，1984 ひらくら 28(1):7），三重郡菰野町鳥峰，伊勢市朝熊山（生川展行ほか，1984 ひらくら 28(4):51）。
- 奈良県奈良，郡山，春日，吉野郡（今立源太郎，1954 *Amateur Entomology* 5(1/2):10）。
- 和歌山県（後藤 伸，1950 紀州昆虫 2(3):5）。
- 京都府京都市内岩倉北東坂原地区（小島国夫，1972 昆虫と自然 7(2):33），桧峠（塚本珪一，1984 京都の自然，p.98）。
- 大阪府箕面（伊賀，1955・後藤光男，1965，1967 箕面山の動物相調査:176，143），東能勢村吉川峠（仲田元亮，1970 能勢の昆虫（甲虫）:34，1978，能勢の昆虫 I:11，1982 能勢の昆虫 甲虫の部 上巻:307）。
- 兵庫県（高橋寿郎，1984 てんとうむし No.9:8）。
- 鳥取県倉吉市米田（河本哲至・井上敏明，1978 すかしば 10:7）。
- 岡山県南部（1978，岡山県の昆虫:129）。
- 広島県呉市灰ヶ峰（保田信紀，小阪敏和，1965 広島虫報 4:132），広島市，高野町新市（中村慎吾，1966 比和科学博物館研究報告 10:9），宮島（小阪敏和，1973 広島虫報，12:81），高野町，比和（中村慎吾，1977 比和の自然:268）。
- 島根県隠岐島（門脇久志，1983 すかしば 20:7）。
- 香川県小豆島（林 匡夫，1956 続・小豆島の自然:16）。
- 徳島県麻植郡鴨島村，名西郡神領村上角，南上角鉢ノ木，高根（三宅義一ほか，1958 昆虫科学 7:30），川島町（矢野俊郎，1961 松山昆虫同好会時報 16:17）。
- 高知県大方町入野（京浜昆虫同好会，1959 新しい昆虫採集 下:323）。
- 愛媛県喜多郡中山（森川国康，矢野俊郎，1941 昆虫界 9(93):765，矢野俊郎，1961 前出:17）。
- 福岡県小倉足立山（三宅義一，1956 北九州昆虫趣味の会々誌 6:5），九住山（三宅義一，

1957 北九州の昆虫 4(1):27), 鞍手郡宮田町(三宅義一, 1957 北九州の昆虫 4(3):13), 彦山(神谷寛之, 1959 彦山昆虫目録 II 鞘翅目:26。高倉康男, 1961 生物福岡 1:8), 足立山, 四倉山, 能古島, 宮田・英彦山, 浮羽郡水繩, 熊渡山, 大牟田, 香春町(高倉康男, 1978 生物福岡 18:28), 足立山(中尾進治, 1979, 北九州の昆虫 26(1):24), 馬見原(山脇好之, 1984 北九州の昆虫 30(3):172)。

長崎県島原市千本木, 新山, 眉山(今坂正一・越智輝雄, 1979 北九州の昆虫 26(2):63)。

熊本県熊本市黒髪町, 立田山, 飽託郡小山山, 阿蘇郡久木野村, 益城郡国見山, 人吉市村山, 球磨郡山江村山田(大塚 勲, 1962 北九州の昆虫 9(2):27), 市房山(小林裕和, 1978 甲虫ニュース 40:6)。

宮崎県霧島山(磯崎恵明, 1968 タテハモドキ 3:34., 清水 薫, 1969 霧島山総合調査報告書:264)。

屋久島(神谷一男, 1938 あきつ 1(3):99。三宅義一, 1956 北九州昆虫趣味の会々誌 5:16., 中根猛彦, 1984 屋久島原生自然環境保全地域調査報告書;608)。

以上長々と駄文を書いてきたがまだ問題が無いわけではなく, 今後も引きつゞき調べを継続して行きたいものだと考えている。

(Aug. 1985)

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(続報その4)

新 家 勝

I はじめに

今回は1984年中の採集品について報告させていただく。今回もまた, 採集場所は「宝塚市」を省略して記載する。

II 採集結果

1. Noctuidae ヤガ科

(1) *Heliothis armigera* Hübner オオタバコガ

1984. 9. 13 南口2丁目